

SSS030-P04

会場:コンベンションホール

時間:5月24日 10:30-13:00

気象庁の歪計による長期的スロースリップイベントの検出の試み

A trial of the detection of the long-term slow slip events by the strainmeters of JMA in the Tokai region

木村 一洋^{1*}, 勝間田 明男¹, 小林 昭夫¹
Kazuhiro Kimura^{1*}, Akio Katsumata¹, Akio Kobayashi¹

¹ 気象研究所

¹ Meteorological Research Institute

2000年から2005年に東海地域で発生した長期的スロースリップイベントを気象庁の歪計観測網で検出できたか否かについては、今のところ結論が出ていない。一般的に、歪計は長期的なトレンドが安定しないため、長期的な変化を見出すことは難しい。一方、小林・吉田(2004)は、潮位の記録から1980年~1982年と1988年~1990年に東海地域で長期的スロースリップイベントがあった可能性があることを指摘している。なお、東海地域の気象庁の歪計観測網は、1970年代後半から1980年にかけて体積歪計が整備されてきたことから、これらの観測期間中には過去3回の長期的スロースリップイベントが発生している。また、1998年以降に整備された多成分歪計の観測期間中には、2000年からの長期的スロースリップイベントが発生している。

そこで、気象庁の歪計で長期的スロースリップイベントを検出できていたのかについて、以下の3つの視点から調査を行った。

1. 体積歪計によるトレンドの変化によって、過去3回の長期的スロースリップイベントを捉えられていたのか。
2. 多成分歪計によるトレンドの変化によって、過去1回の長期的スロースリップイベントを捉えられていたのか。
3. 1980年に設置した蒲郡観測点から推定した短期的スロースリップイベントの頻度から、過去3回の長期的スロースリップイベントを間接的に捉えられるか。

キーワード: 歪計, 長期的スロースリップ

Keywords: strainmeter, long-term slow slip event